

当面のスローガン

- あいつぐ差別糾弾闘争を強化
- 全学校で人権・同和教育を!
- 全自治体で同和行政を!
- 西日本夏期講座の成功を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3  
 TEL 083-923-2303  
 FAX 083-921-1919  
<http://y-kaihou.jp>  
 編集発行人 松岡 広昭



分科会では、実践報告と参加者からの意見が絶えることがなかった

第60回全国人権・同和教育  
 差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障す



同和教育の「継承と発展」を  
 全同教大会 奈良に一万四千人が結集

第60回全国人権・同和教育研究大会が11月29、30日にかけて奈良市中央体育館を主会場に開催された。全国から同和教育運動に取り組む人たちが約1万4千人が結集し、分科会では140本の実践報告に対して、真摯な議論が展開された。

世界人権宣言60周年という記念すべき年に第60回大会が開催された。今大会では、これまでの同和教育の歩みを確認し、時代の歪みが生み出す「差別の現実」と課題に対して展望を示すことが出来るの

かが問われた。

今回の奈良大会では「継承と発展」が地元テーマであった。全体会では奈良県人教・広陵西小学校の森下和恵さんが「一人一人の子どもが大

事、すきやねん。」1年めの出会いを心にとめて」と題した特別報告がおこなわれた。教師になり1年めに学級崩壊。生徒に振り回されるなか、「現象でなく、背景を捉えることが大事」という先輩教師のアドバースから、家庭訪問や子どものしんどさなどを聞く中で、教室を立て直していく。これまで同和教育でつみあげてきたものを、若い先生にしっかりと継承されていることが伝わってくる報告だった。全体会では「継承と創造」を求めた大会宣言が採択された。しかし、宣言文のなかに「同和教育を全国民のものとする...」

「国民大衆全体の要求に根ざす教育」「国民全体の課題」など「国民」という文言が何度も使用されていることに対して、いくつかの分科会では参加者から問題提起もあった。これまで全同教運動では、在日コリアンやニューカマーの子どもたちなど多くの教育課題に取り組んできた。在日外国人が「国民」でないというところで起きてくる諸問題の解決に向けて取り組んでいるのに「国民」を強調するのはおかしいのではないかという意見も相次いだ。分科会では報告者の実践に対して、多

再生。改革を目指して  
 中央オルグ・全国行動

「部落解放運動再生・改革」全国行動を11月5日に県連事務所でおこない、中央本部からは岡田中執と橋本中執が参加、山口県連からは松岡委員長をはじめ県連役員

員など各支部から15人が参加した。今回の全国行動は、「再生・改革」に向けた意識改革と、県連や支部が抱える問題や組織現状の把握を双方向の意見交換

をして課題を共有し、具体的な再生・改革への運動を展開していくことを目的に実施した。岡田中執は挨拶で「人権の21世紀にふさわしい、周辺地域

の課題も含めて担う組織・同盟員の質の向上と運動を「めざし、忌憚のない意見交換を呼びかけた。橋本中執からは、①各地での差別事件



運動課題を提起する橋本中執(右側)



山口の課題について熱心に議論が交わされた

②組織の停滞、同盟員の減少③財源の困窮④人材不足、この4点が組織の大きな課題。これをどのよう

に克服していくが重要と提起された。それらの懸念事項にそって、県連や各支部の状況を出し合い、今後の組織「再生・改革」への課題解決に向けた取り組みを議論した。

部落解放同盟山口県連合会  
 2009年旗開き(ご案内)

日時 1月18日(日) 10:30~

場所 ホテルかめ福

山口市湯田温泉4-5 TEL083-922-7000

記念講演 「あした元気になあれ」

松村智広(反差別・人権研究所みえ)

お問い合わせ 部落解放同盟山口県連 TEL083-929-2303

くの参加者からも発言があり熱心な議論が展開され、あらためて同和教育が大切にしてきたものを深く考えさらされた。来年の全同教大会は11月28、29日の日程で、三重県四日市で開催される予定。